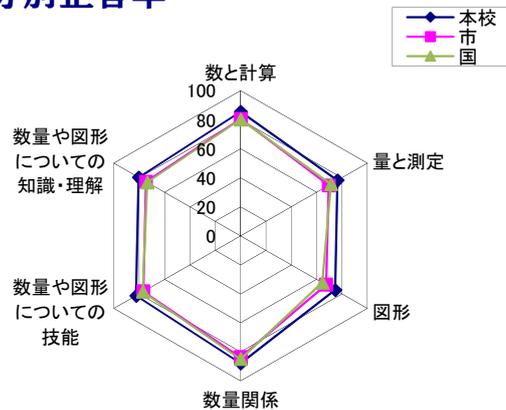


# 宇都宮市立今泉小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

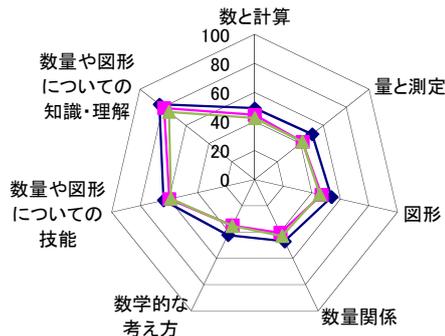
### 【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	85.4	80.7	80.1
	量と測定	76.5	69.6	71.3
	図形	74.7	67.4	64.5
	数量関係	87.9	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	82.6	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	80.5	74.8	73.6



### 【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	49.2	44.6	42.4
	量と測定	50.2	41.8	41.7
	図形	53.8	46.8	45.6
	数量関係	47.0	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	42.2	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	63.7	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	83.2	79.1	74.9



## ★算数に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の2つの質問に対する肯定的回答率がそれぞれ96.9%、94.8%となっている。これはともに3ポイント以上全国平均を上回っており、算数という教科についての必要性を感じていると考えられる。  
 ●「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の問いの肯定的回答率は67.3%で全国平均とは大きな差はないものの、県の平均と比較すると4.3ポイント下回っている。

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○Aテストの平均正答率は85.4%で全国平均より5.3ポイント高い。 ○Bテストの平均正答率は49.2%と全国平均より6.8ポイント高い。 ●小数が入っている問題の正答率は75%前後と、小数の計算の定着に課題がある。 ●概数を用いた見積もりに関する設問の正答率が24.2%と課題がある。	・四則計算を復習し、計算の手順をしっかりと身に付くよう指導する。 ・小数や概数を用いた計算の理解を深め、文章問題や活用力を問う問題を解く機会を多く設ける。
量と測定	○Aテストの平均正答率は76.5%と全国平均より5.2ポイント高い。 ○Bテストの平均正答率は50.2%と全国平均より8.5ポイント高い。 ●分度器で180°より大きな角度を求める問題での正答率は62.1%であった。 ●分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を書く問題では正答率が16.8%、無回答率が9.5%と課題がある。	・分度器や三角定規など用具を使って正確に角度を測るとともに、図形を想像して測定できるように練習を繰り返す。 ・式で表すだけでなく、図や数直線を持ちいて説明ができるように指導することで、考えを言葉で記述する場面を多く設ける。また、友達と意見交換の場を設け、自分の考えを表現することに慣れることができるようにする。
図形	○Aテストの平均正答率は74.7%で全国平均より10.2ポイント高い。また、このテストの設問別平均正答率は全て全国平均より高い。 ○Bテストの平均正答率は53.8%と全国平均より8ポイント高い。 ●円の性質を根拠として答える設問では正答率は60.0%と、全国平均を上回っているものの課題がある。 ●平行四辺形の特徴を活用して解答を記述する設問では平均正答率が29.5%と、全国平均を1.8ポイント上回っているものの課題がある。	・三角形や四角形の作図や折ったり切ったりする操作活動を多く取り入れ、視覚的に体験的に理解できるようにする。 ・日常生活の中での算数の活用を考えさせたり、応用できることを見つけさせたりする。
数量関係	○Aテストの平均正答率は87.9%と全国平均より3ポイント高い。 ○Bテストの平均正答率は47.0%と全国平均よりは4ポイント高い。 ●増量後の分量をもとに基準量を求める割合の設問では正答率が13.7%と、全国平均よりも0.6ポイント高いものの、課題がある。 ●Aテストでのこの領域の無答率は2.1%ではあるが、他の領域よりも高い。	・日常生活で算数が活用される場面を想起させながら、どのように立式すればよいかを考えさせ、計算を身近なものとしてとらえさせる。